



SNSのつながりの調整や最適化

米澤 朋子

総合情報学部 総合情報学科

米澤研究室

Point1

本研究の概要

SNSは現実世界よりも趣味嗜好の近い他者と簡単に触れ合えるメディアですが、争いの煩わしさや精神的苦痛を覚えるといった「SNS疲れ」という問題も浮上しています。本研究では、ユーザ間のつながりの最適化や、メッセージのフィルタリングや補正により、ユーザのSNS疲れやオンラインでの他者との衝突を減らし、コミュニケーションの適正化と有益化によるオンライン活動の真の豊かさを目指します。

Point2

応用可能な分野

メンタルヘルス関連。ファッションなどの流行理解。ネットトラブル・情報リテラシー教育。趣味嗜好の知的リソース支援。対人関係教育支援。

Point3

連携を希望する業種等

情報通信企業、特にこれまでサイトフィルタリングなどを担ってきてこれから様々なフィールドを開拓しようとする企業。医療機関。教育機関。

詳細な研究・技術シーズは次のページへ



用途・応用分野

- 効率的・快適なオンラインコミュニケーションの実現
- コミュニティ最適化の自動化
- SNS疲れ緩和

本技術の特徴・従来技術との比較

- SNSは、多様な人物を匿名でつなげる、コミュニケーションの可能性を広げ視野を広げるものである。一方、相手の意図の邪推、自身の状態に関わらず来る情報、望まない量や頻度のコミュニケーション、などの問題をはらむ
- ユーザ間のつながりの最適化、および、各メッセージのフィルタリングや補正により、ユーザのストレスを減らしたりコミュニケーションを適切に有益にできることが期待される

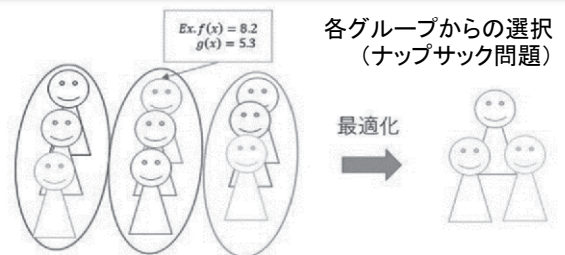
技術の概要

【ナップサック問題的に適切なバリエーションでコミュニティを最適化し形成する】

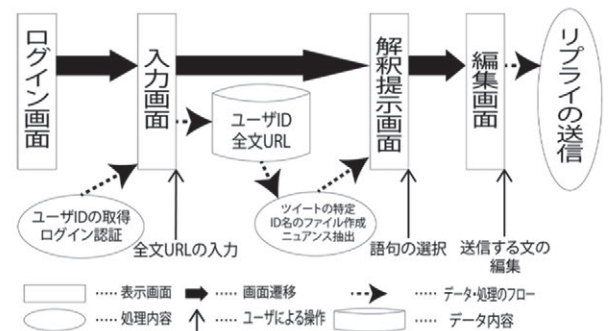
- ⇒ 気分がよくない症状のユーザが、様々な気分状態のユーザとストレスが低い形で繋がる
- ⇒ 一般的な知識を得たい時に(例:サッカー)、知識カテゴリの異なるユーザと少しずつ繋がる

【メッセージのフィルタリング・複数解釈提示】

- ⇒ 投稿時に問題のあるキーワードをフィルタリングし和らげる表現に置き換えるモジュール
- ⇒ メッセージの意味に介在する曖昧性を利用
 - 受信時に類似単語を複数提示し、ユーザに解釈を委ねる
 - 返信時にユーザの解釈(選択)を含めるをフィルタリングし和らげる表現に置き換える



適切なバリエーションでのコミュニティ最適化



メッセージの複数解釈提示に基づく返信

特許・論文

<論文>

- 伊藤, 米澤. 気分障害に適したtwitter上コミュニケーションの最適化手法の検討. 信学技報, vol. 118, no. 487, pp. 25-30, 2019.
- Y. Okada, N. Itoh, T. Yonezawa. Optimal community-generation methods for acquiring extensive knowledge on Twitter. HCI2021. to appear, 2021.
- 岡田, 小山田, 米澤. 複数解釈ニュアンス提示に基づく返信によるTwitterコミュニケーションの提案. vol. 121, no. 37, HCS2021-2, pp. 5-10, 2021.

研究者

米澤 朋子
総合情報学部 総合情報学科
米澤研究室